

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	0372300244
法人名	社会福祉法人 宝寿会
事業所名	グループホーム はなみずき石鳥谷
所在地	岩手県花巻市石鳥谷町上口1丁目3番地1 (電話) 0198-45-1153
評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター3F
訪問調査日	平成19年8月29日

## 【情報提供票より】( 年 月 日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14年 1月 11日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 人 常勤 8 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 7.9 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造り 1 階建ての 1 階 ~ 階部分
------	-------------------------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	21,000 円	
敷金	有( 円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

### (4) 利用者の概要( 月 日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	0 名	要介護2	0 名		
要介護3	5 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88 歳	最低	84 歳	最高	94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	宝陽病院、花巻市医療センター、来久保医院
---------	----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅街の中に位置し、すぐ側に保育園があり、小さな子供達の元気な声が響き渡っていた。地区的に核家族で若い世帯が多く、なかなか地域密着の取組には四苦八苦のようであったが近隣の保育園や小学校、また学校単位でのボランティアの受け入れなど、開かれたグループホーム作りに取り組んでいる。そして利用者が常に清潔で健康でいられるように衛生面のケアや、事業所内の清掃は隅々まで行われ、非常に心地よく綺麗である。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	自己評価について職員全員で行い共通理解・共通認識で日々の介護に当たっている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価について職員全員で行い共通理解・共通認識で日々の介護に当たっている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	自己評価について職員全員で行い共通理解・共通認識で日々の介護に当たっている。今までの運営推進会議は、事業所を地域の方々に理解して貰うため報告する形が多かった。定期的な会議に参加頂き、協力を得ている。市の在宅老人のケアなどの会議等のメンバーにもなったりしており、日ごろから市の担当者とは連携が取れている。必要に応じて相談にも乗ってもらえる環境にもあるので、今後もよりよい関係続けていきたい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	入居時に、施設長が「大切なご家族をお預かりしていますので、大切な方に会いに来てください」とお話ししており、ご家族の訪問は多く、毎月1回以上の来訪があり、ご家族とのコミュニケーションはよく取れている。毎月の献立表と金銭出納帳の内容を報告している。家族アンケートを実施するなど、ご家族の意見の吸い上げ等を行っており、さらにそれを生かした日々の活動を行っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	併設の養護施設の方々と一緒に地域の方々の訪問を受けたりしている。地域のお祭りや、敬老会にも積極的に参加している。また盛岡市内の高等学校の慰問も受けたりしている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	近隣の保育園等、地域との関わりを大切にし、法人としての理念「和と笑顔のある家」で穏やかな生活が送れるよう支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	自分らしい生活が送れるよう利用者の生活援助の内容をミーティングノートに記録し職員が情報を共有出来るようにしている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	保育園、小中学校との交流、地域のお祭り、文化祭への参加にも積極的である。また盛岡市内の高等学校の慰問も受けたりしている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の自己評価は、職員全員に理解してもらうためにも、一緒に協議しながら記入し、今後この評価を活かしていこうと考えている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況、評価への取り組み状況等報告し理解や意見をいただいている。	○	今後の運営推進会議は、メンバーの方々にグループホームの視察をしてもらったり、入居者との交流を持つ等より認知症への理解への取り組みをしていきたいと考えているほか、地域の警察署の方に徘徊時の対応や地域の協力の必要性などを講義してもらいたい等考えている。実現し、より運営推進会議を充実させていくことを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者との連携は良好に保たれており、一緒に課題解決を図るなど取り組みが来ている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居時に、施設長が「大切なご家族をお預かりしますので、大切な方に会いに来てください」とお話しており、ご家族の訪問は多く、毎月1回以上の来訪があり、ご家族とのコミュニケーションはよく取れている。毎月の献立表と金銭出納帳の内容を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に意見を伺ったり、アンケートにて聴取しており、意見くみ上げのための努力が見られる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	母体の養護老人ホーム、デイサービスが併設されているが、利用者との信頼関係を築くために異動は最小限に考えている。職員と利用者の馴染みの関係が作り出されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1度は母体施設の研修に参加。外部研修にも全職員が参加し、報告書を閲覧できるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームとの連絡会があり、スタッフが研修する機会がある。	○	今後は交換研修等企画したいとの話があり、是非実行し横の繋がりを密にしサービスの質の向上に励んでいただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設の養護老人ホームで短期入所の利用からグループホームに入所する方も多く、施設職員との連携を図り短期入所利用時から遊びにきてもらう等の工夫がされており、馴染みながらの利用になっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	特に調理に関して若い職員は教わることが多く、生活の中で自然に学んだり、支えあう関係が築かれている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の重度化、意欲の低下があり、本人からの意向の把握が難しいこともあり、現在は意欲低下の方への対応を模索中で、家族アンケートを利用し、家族などの協力も得ながら本人本位に取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケース記録、通院記録をもとに、本人や家族の意向、かかりつけ医など利用者を取り巻く人たちの声を聞きながら、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回サービス計画の見直しの他、状態の変化に応じて見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設の短期入所、デイサービスセンターがあり、そちらの施設との連携が図られており、併設の良い面が生かされている。	○	併設のデイサービスはあるが、認知症対応のデイサービスの必要性を感じており、今後、事業所の多機能性を活かして、より地域に根ざしたサービスの実現が出来ていくことを期待する。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族が希望するかかりつけ医への通院は原則、家族が付き添っているが、都合を考慮し、職員、施設の看護師が付き添う等、柔軟な対応がされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期までグループホームで生活したいという本人、家族の要望が強く、必要性は感じているが現状では難しい。家族の協力、併設の職員の協力を得ながら出来る範囲で対応している。急変時の対応、終末期についての勉強会も実施している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入浴、排泄は1対1の介助、排泄介助では、使いやすさを考慮しカーテンの使用等工夫がされている。また個人情報等、使用時には個別に使用年月日、使用目的等の記載をして取り扱いを明確にしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、利用者はゆったりと、自分のペースで過ごされていた。帰宅要求がある利用者に対しては止めるのではなく思いを大切にして付き添う等の対応がされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食堂はテーブルに花を飾ったり、職員の声がかけて明るい雰囲気であり、テーブルを拭いたり、利用者の出来る範囲で一緒に行い、食事を楽しむための支援がされていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午後の夕食前の時間帯を希望される方が多く、順番、タイミングを考慮しながら対応している。又、利用者の状態に合わせて、希望を聞きながら母体施設の特浴を利用することもある。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の状況に合わせた支援の他に、利用者全員が歌が好きなことから、午後のおやつ後にレクの時間を設け歌を歌ったり、聞いたりし、楽しまれている。裁縫を得意とする方の居室には裁縫セットがあり、思い思いの楽しみごとを行っている様子が感じられる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	車椅子利用者が多く、外出する機会が少なくなっているが、時々、買い物や、近くの公園に新緑や紅葉を見に出かけている。	○	日々の外出支援のほか、以前はやっていたが暫くやっていたなかった、「故郷めぐり」を復活させようと考えている。懐かしい場所への思いを大切に、支援していく取組みに期待したい。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関は開放されており、外出しそうな様子があれば、止めるのではなく、一緒について行く等本人の思いを大切にしている。広い敷地内は併設の施設職員の見守りもあり、自由に散歩できる状況である。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	母体施設と一緒に年1回は消防署、地域住民の協力を得て避難訓練を実施。グループホームでは、月1回非難経路の確認を利用者と一緒に行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の資格を持った職員が、専門的観点からチェックしている。また、食事、水分の摂取状況をチェック表に記録し職員が情報を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は明るく清潔感がある。玄関にはプランターを置いたり、廊下、食堂には花を飾るなど季節感を取り入れている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室で使用する物は使い慣れた物を持ち込まれるよう、本人や家族に働きかけるなど、居心地のよい居室作りに取り組まれている。また、自身で書いた習字や、ぬりえが飾られてあり、思い思いのお部屋になっている様子が窺(うかが)える。		